

まるのも大変ですし、モントリオールの演奏は素晴らしく、録音もしていたのですがフェスティバルとの契約上、それをリリースすることは不可能でしたから。本当にラッキーでした。

Q: その他のメンバーはどういった繋がりですか？

高免: ベースのジョン・レニスはNYに移ったあと、一緒に演奏していたピアニストのバンドで知り合いました。ドラムのウチダユタカさんも3年前の911追悼音楽イベントで知り合ったNYでの関係ですね。NYに移ってから本当に沢山の素晴らしいミュージシャンに出会いました。今回のカルテットでは以前いつも一緒に演奏していましたし、アルバムも作っていますので「また戻って来たな!」という感じで、リハーサルもなしでスムーズにレコーディングすることが出来ました。

レコーディング秘話

Q: ライヴ・レコーディング自体は問題ありませんでしたか？

高免: エンジニアの内藤カツさんに相談をしたときにCDに出来るだけの演奏時間があるのかということと、録音機材のセッティング時間が問題になりましたね。というのも、元々2セット演奏出来ることになっていたのが、1時間の1セットのみになってしまい、次のバンドも控えているという状況でしたから。

Q: それは1曲も無駄に出来ないし、編集すらままならない状況ですね。

高免: そうなんです。ですから曲間のみの編集で、あとはありのままの演奏がCDになったということになります。マイクのセッティングもサウンド・チェックをしている間にセットされていて、終わって「サンキュー」を言っている間にすべて片付いていたという(笑)。サバイバルなNYで長年エンジニアをやっている百戦錬磨のカツさんあってこそその録音でしたね。

Q: プレッシャーは感じませんでしたか？

高免: レコーディングを決めた時点で、「1発でやってやろう」という気合いがありましたから、もうなるようになれという感じですね(笑)。選曲も過去2枚リリースしたアルバムから選んで、特別な試みなどをせず普段と全く同じギグをやる。ただ、持ち時間が少なく、CDとして60分は欲しかったので曲間もなるべく喋らないようにしましたね。今まで普遍的なアルバムを2枚作ったので、今回は敢えて瞬間を捉えたアルバムにした

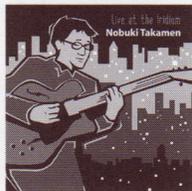
かったというのがあります。何度も演奏しているうちに自然とアレンジが変わってきたりもしていますね。

Q: それは頼もしいですね。ところでリリースは米国のレーベルからですね？

高免: はい。イリジウムのブッキングをしてくれた人が、紹介してくれたのが今回のサミット・レコードだったんです。他の会社にも打診して幾つかの連絡はあったのですが、一番気に入ってくれていたということもあり、お願いすることにしました。サミットは去年ランディ・ブレッカーのアルバムでグラミー賞も取っているんですよ。そんなわけで、プロモーションにも力を入れて頂いて、とても感謝しています。来年の夏にはアメリカでツアーを組んでもらう予定です。

Q: 機材はどのようなものを利用されましたか？

高免: ギターはいつも使っているリイシュー



「Live At The Iridium」
Nobuki Takamen
(Summit) DCD-547 (輸入盤)

のギブソンES-335です。アンプはアコースティック・イメージのClarus。これはもう作っていない小型250ワットのリヴァーブ付きモデルですね。それとレイザーズ・エッジのStealthという12インチ・キャビネット。最初の1台を買ってから同社のモニターになったので、幾つか違うサイズのものも持っているのですが、演奏する部屋の大きさによって変えています。

NYでの活動と未来

Q: NYでの活動はどれくらいになりますか？

高免: '04年からなので、6年になります。本当は1年で帰国するつもりだったのですが、最初作ったアルバムが切っ掛けになり、長くいることになりましたね。でも、ここにいることでギタリストとして確実に

成長していているなという実感は凄くあります。来た当初には思いも付かなかったようなことを今やっていたり、刺激も多いです。すね。

Q: 毎日の過ごし方はどんな感じですか？

高免: 今は毎日演奏したり、レッスンをしたりとギターを触らない日がない感じです。演奏に関しては恵まれているとは思いますが、基本的には好きなミュージシャンとやりたいことが演奏出来る仕事をしています。今日もこれからシンガーとデュオの仕事ですが、本当にやりがいがあります。自分のバンドに関しては、ニューヨークでのレギュラー・ギグの他に、出来るだけ多くの人々に自分の音楽を聴いてもらえるように、アメリカやヨーロッパのジャズ・フェスティバルを含むツアーも企画しています。何よりもメンバーとの演奏旅行は本当に楽しいのです。

Q: 今後の活動について聞かせてください。

高免: 最近、ソロ・ギターで演奏する機会が増えていて、カナダに行ったときにもソロ演奏を頼まれましたし、ヨーロッパからもオファーがあったりもしているんです。ジャズのソロ・ギターはまたそれだけで1つの歴史があるじゃないですか。トリオをやるようになってから、ソロに対する意欲が高まってきたというのがありますね。7弦プレイヤーのピオニアでもあるジョージ・ヴァン・エブスなどが好きなのですが、将来はソロ・ギターのアルバムを作れるようになりたいですね。

【ライブ情報】

「Live At The Iridium」発売記念日本ツアー

高免信喜 (g)、ジョン・レニス (b)、吉川昭仁 (ds) 他

- 10月20日(水): 広島 すけあくろう
- 10月21日(木): 広島 光園寺
- 10月22日(金): 広島 バード
- 10月23日(土): 広島 ライフワン
- 10月24日(日): 広島 La Cazuela
- 10月25日(月): 博多 ニューコンボ
- 10月26日(火): 山口 ポルシェ
- 10月28日(木): 大阪 Jazz on Top
- 10月29日(金): 明石 Pochi
- 10月30日(土): 三都ミュージックストリート 2010 (ワークショップ)
- 10月31日(日): 三都ミュージックストリート 2010 (コンサート)
- 11月1日(月): 鳥取 川一銀座倶楽部
- 11月2日(火): 京都 le club jazz
- 11月4日(木): 横浜 KAMOME
- 11月5日(金): 東京 桜美林大学
- 11月7日(日): 東京 Tokyo TUC